

関口存男における前置詞 zu

著者	佐藤 清昭
雑誌名	浜松医科大学紀要. 一般教育
巻	20
ページ	11-35
発行年	2006-03-24
URL	http://hdl.handle.net/10271/23

関口存男における前置詞 zu

佐藤 清昭

(日本語・日本事情)

Die Präposition "zu" bei Sekiguchi T.

SATÔ Kiyooki

Japanisch u. Japanische Angelegenheiten

Zusammenfassung

Der japanische Philosoph und Sprachwissenschaftler SEKIGUCHI Tsugio (1894-1958) wollte nach seinem monumentalen Werk "Der Artikel" (Tokyo 1960/61/62, 3 Bde., insgesamt 2 301 Seiten) Arbeiten wie "Die Präposition", "Das Adjektiv", "Das Advverb" u. a. schreiben, die aber wegen seines Todes nicht ausgeführt werden konnten. Uns, die ihm nachfolgenden Forscher, interessiert nun, was für Werke über diese Themen in Bezug auf Inhalt, Form und Umfang entstanden wären.

Die Absicht der vorliegenden Arbeit besteht darin, die Bedeutungstypen ("imi keitai") der Präposition "zu", die sich bei SEKIGUCHI's Werken und bei seiner Sammlung der Beispielssätze, Collectanea, befinden, aufzuzählen und ordnungsgemäß darzustellen.

Es lassen sich bei SEKIGUCHI 22 Bedeutungstypen von "zu" feststellen, die teilweise in Über- und Unterverhältnissen stehen.

key words: SEKIGUCHI Tsugio, grammar, preposition, German preposition "zu"

キーワード: 関口存男, 意味形態, 前置詞, zu

0. はじめに

0.1. 本稿は、関口存男研究の「前置詞編」のうち、zu の項を成すものである。同研究「前置詞編」の現在までの軌跡については、以下の論文を参照されたい。

佐藤清昭 (2000): 関口存男による前置詞の意味分類 — 「激突急停止の in」(ほか)と「前置詞論」一。所収: ドイツ語学研究(冠詞研究会) 10, 11-48 ページ。

— (2002): 前置詞研究のあり方。「関口存男: 前置詞論」試案 — an を例として。所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 16, 31-53 ページ。

— (2003): 関口存男における前置詞 auf。所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 17, 43-66 ページ。

— (2004): 関口存男における前置詞 in。所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 18, 53-79 ページ。

— (2005): 関口存男における前置詞 mit。所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 19, 25-47 ページ。

0.2. これらの研究においては、an, auf, in, mit の「意味の種類」をそれぞれ 22, 34, 25, 22 確認し、それらを例文とともに示した。

本稿で確認した前置詞 zu の「意味類型」は 22 であった。

1. 前置詞 zu の「基本的な意味」と意味形態

1.1. 前置詞 zu の基本的な意味

zu は、空間的には「向かわんとする当面の目標」を指し、時間的には「目前に迫った将来」を指す。

【冠詞 I: S. 157】

in (と 4 格) が、その状態に達した後でもまだしばらく動作が継続され、そこにまだ程度や激しさや方向や、その他いろいろな複雑な要素が残ること、いわば方向としては無限に続くことを考えるのに対し (「**展張方向の in**」), zu は達すべき状態に達すればそれで一応けりがついて動作が一完結することを意味する。zu は、はっきりした一点に到達して、そこが終点になることを考えさせる。例えば受動の迂言動詞の一つである zu ... kommen, gelangen がそれで, zur Sprache kommen (= besprochen werden), zum Ausdruck kommen (= ausgedrückt werden), zur Durchführung gelangen (= durchgeführt werden), zur Darstellung gelangen (= dargestellt werden) など、いったん表現されたり述べられたりした以上は、もはやハッキリとした形に結晶するわけで、それで停止するから zu でなければならないわけである。 【冠詞 I: S. 801-802】

1. 2. 前置詞 zu の意味形態

① 連関的所属の zu

Zu diesem Schrank habe ich den Schlüssel verloren. 私はこのタンスの鍵をなくしてしまった | *Zu diesem Rätsel* findet wohl keiner das Wort. 此の謎を解き得る者はおそらくなからう | *Zu dieser Erscheinung* muß man noch die Ursache ausfindig machen. この現象に対してはまだこれから原因を発見しなければならない | *Zu dieser Frage* muß noch eine (あるいは die) Lösung gefunden werden. この問題に対しては、まだ解決が発見されなければならない

♥ 連関的所属の zu は、名詞付置的に用いて「直接規定」(つまり「規定される名詞と一緒にあってひとつの文肢を成す規定」)の形で現れることが多い。

Die Melodie *zu diesem Volkslied* この民謡のメロディー | Der Schlüssel *zu diesem Schrank* このタンスの鍵 | Das Wort *zu diesem Rätsel* 此の謎の心

名詞付置的に用いて「直接規定」の形で現れることが多いのは、「具有生の an」, 「所属の von」も同様である。

Das Erstaunliche *an diesem Werk* この作品における驚異的な点 | Die Melodie *von diesem Volkslied* この民謡のメロディー | Die Hälfte *von der Lunge* 肺の一半

これらの前置詞の名詞付置的用法の日本語訳がたいてい「の」で間に合うところをもって見ても、これらの前置詞がほとんど2格と同じものであり、したがって「直接規定」としてもっとも普通のものであることが感ぜられる。

♥ 上の最後の文例 (*Zu dieser Frage* muß noch eine (あるいは die) Lösung gefunden werden.) の Lösung に不定冠詞を用いれば、「どの解決」を発見するかが問題ではなく、「どんな解決」でもよいことを暗示することになる。

【冠詞 I: S. 258-259; 文例集 (29) 前置詞, S. 685-697】

[佐藤] 関口は文例集の当該箇所(上記参照)において、項目名として「連関的所属」, 「付帯」, 「対立」, 「付属対立」, 「所属的」, 「対属」という用語を区別なく使っており、ここにあげた「① 連関的所属」と次の「② 付属対立の zu」が密接に関係していることが分かる。

② 付属対立の zu

Wunderlicher Alter, / Soll ich mit dir gehn? / Willst *zu meinen Liedern* / Deine Leier drehn? (Wilhelm Müller: Winterreise, Der Leiermann)「不思議な爺さんよ、私はあんと行くのかい? 私が歌を作ったら、それ

に合わせて手琴を回してくれるかい？」 | Der Text **zu einer Oper** オペラのテキスト | Die Musik **zum Film** 映画のための音楽 | Die Anlage **zur Völkerbundsatzung** 国際連盟規約の付属書 | Erläuterung **zu Goethes Faust** ゲーテ作ファウストの注釈

♥多少たりとも「相関的」な、相対立すると同時に **zusammengehören** するものにはこの種の **zu** を用いる（例えば、曲と歌詞、本文と付属書、ビールとお茶、テーゼとアンチテーゼ、新聞小説と挿画、その他なんでもよしい）。「**付属対立の zu**」と呼んだのはこの理由からである。だいいち **gehören** 「属する」という動詞が **zu** とともに用いられるから、それと関係させて考えればますます明瞭であろう。

♥何かに「合わせて」何かをどうとかする、という際に必ず用いられる **zu** である。

♥この **zu** の用法になれない人はうっかりすると、**zu** の代わりに2格を用いたり、**von** を用いてしまうことがある。

「A君がオペラを作って、B君が『その』歌詞を作る」

Herr A komponiert eine Oper und Herr B schreibt ihm den Text **dazu**.

(dessen Text または den Text davon は誤り)

「国際連盟規約の付属書」 Die Anlage **zur Völkerbundsatzung**

(Die Anlage der Völkerbundsatzung は誤り)

「ゲーテ作ファウストの注釈」 Erläuterung **zu Goethes Faust**

(Erläuterung von Goethes Faust は誤り)

Sie schneidet Vignetten **zu den Büchern**, die ihr Mann herausgibt. 彼女は夫が出す書物の巻頭の唐草模様のカットを作っている | Er liefert Zeichnungen **zu meiner Zeitschrift**. かれは私の雑誌の挿画を描いてくれる | Sie liebt es, Halbschuhe und **dazu** mattfarbene Strümpfe zu tragen. 彼女は夜会靴をはいてくすんだ色の靴下を見せるのが好きだ | Seine Artikel waren das Gegenstück **zu den meisten akademischen Abhandlungen**. かれの記事は大抵の大学臭ぶんぷんたる論文に対する好個の対照であった | Professor Lemke war ein hagerer, älterer Herr, der eine Hornbrille **zum Frack** trug. レムケ教授というのは、えんぴ服を着てロイド眼鏡をかけた、やせぎすの中年紳士であった | Wie schmeckt das? Und was trinkt man **dazu**? それはどんな味がするか? そして一たい何のツマにするのか? | Aber darum gibt es heute auch **zu jedem Gedanken** einen Gegengedanken und **zu jeder Neigung** gleich die entgegengesetzte. (R. Musil: Der Mann ohne Eigenschaften) だからこそ現今においては、何か一つの考えがあれば、必ずそれに対する反対の考えがあり、一つの傾向があれば、また必ずその正反対の傾向があるというわけなのである (次の「意見の **zu**」との中間現象とみられる) | Mancher Stümper hat **zu einem schönen Titel** eine schlechte Komödie gemacht, und bloß des schönen Titels wegen. (Lessing) 題ばかり立派なのをつけて、芝居の内容のなっていない劣悪作者が多い。しかも題が面白いからと言って作るのだからたまら

ない

♥この zu の性質を明らかにするのは、Gegensatz「対照，対立」という概念と Gegenteil「反対」という概念との文法的相違である。「大は小の反対である」をドイツ語で言うと、Groß ist das **Gegenteil von klein**. で von を用いるのが自然であるが、「計画経済は自由経済の反対である」という時には、Gegenteil よりむしろ Gegensatz を用いて、Planwirtschaft steht im **Gegensatz zu** freier Wirtschaft. と書いた方がよい。These と Antithese とが問題になるときも同様である。

♥特にちょっと面白いのが gute Miene **zum bösen Spiel** machen という熟語である。二つの用法があって、ある時は「形勢が悪くなってもたじろいだ様は見せぬ」という意味に用い、ある時は（この方が元来正しいのだが）「悪いことをしながらてん然としてすましこむ」の意に用いる。この zuこそは確かに「**付属対立の zu**」である。

Doch einer, seht, ist in dem Schwarme noch, der **gute Miene macht zum bösen Spiel**: das lust'ge Schneiderlein von Benevent. (Hamerling: Ahasver in Rom) しかるに見よ、一座にはこの白け渡つた局面をしゃれでごまかす勇気のある男が一人いた、それはベネヴェント生まれの愛嬌者の仕立屋さんである | Um hier ganz von den verkappten Egoisten und Parteigängern abzusehen, die **zum bösen Spiele**, das sie treiben, **eine recht objektive Miene machen**. (Nietzsche: Vom Nutzen u. Nachteil der Historie für das Leben) かなりやましいことをやりながら、しかもとても客観的な顔をしてすましている仮装した利己主義者や党派的な奴らは問題の限りにあらずだが | Bosheit hab' ich dulden gelernt, kann **dazu** lächeln, wenn mein erboster Feind mir mein eigen Herzblut zutrinkt. (Schiller: Räuber) 悪いことはいくらされても平気だつた。不倶戴天の仇敵がおれ自身の心臓の血をもっておれに向つて乾盃しても、おれはそれを見て微笑んでいることができる

【ドイツ語前置詞の研究: S. 80-86; 文例集 (29) 前置詞, S. 685-697】

③ 意見の zu

♥上の「② 付属対立の zu」とほとんど同じ意味形態を有しながら、ちょっと傍系的に発達してきているのが「**意見の zu**」である。

Was sagen Sie **dazu**? あなたはどうお思いになりますか / それに対するお考えはいかがです

これは Was ist Ihre Meinung **zu diesem Vorschlag**? 「この提案に対するあなたのお考えは」などとも言えるから、一つの動議とそれに対する意見とは、対立する二つの相関概念として考えられる。この点において上の「② 付属対立の zu」と同じである。ただし、主に「意見」に関して用いられるという点で別項として取り扱うべきであろう。

Acht Rechtsgelehrte waren **zu dem Thema** um ihre Ansicht befragt worden. この問題に関して八名の法律学者が意見の開陳を求められた | In Angora wird **zu den Vorgängen** in Iran erklärt, daß es sich keineswegs um einen Putsch handele. トルコ政府はイラン事件に関して該件は決して反乱に非ずとの声明を發した

【ドイツ語前置詞の研究: S. 80, 83, 84-85; 文例集 (29) 前置詞, S. 685-697; 文例集 (76) w-z, S. 144-154】

④ 結果の zu, 結果挙述の zu

Die Suche nach dem Baby Lindberghs ist schließlich **zu einer Volksbewegung** herangewachsen. リンドバーグ二世の行方搜索はだんだんと大騒ぎになつて、ついには一種の民衆運動と化するにいたつた
♥「云々して何とかになる」, または「云々して何とかにする」という日本語はたいていの場合, 「云々して」に相当する動詞を「zu + 名詞」とともに用いて表現することができる。

zu Regeln stempeln 金科玉條だと折紙をつける | **zu Brei** schlagen ぶつぶぶしてお粥にしてしまう | **zu einer Riesensumme** anschwellen 膨張してもって巨額となる | **zu einer Jungfrau** erblühen 咲きほころんで乙女となる | sich **zum Anführer** aufwerfen 打つて出てもって首領となる | sich **zu einem See** vereinigen 合流してもって湖となる | sich **zu einem Kapital** anhäufen 積んで資本を成す | **zu einem Klumpen** zusammenschmelzen 溶けてひとかたまりとなる | sich **zu einem Verein** zusammentun 寄り集まつて会を作る | sich **zu einem Ganzen** gestalten 形作られて一つのまとまつたものとなる

以上の形式は、うっかりするとドイツ語を読むときにもちょっと誤解されることがある。たとえば **zu einem Klumpen** zusammenschmelzen は、けっしてまずひとつの Klumpen がはじめから存在していて、そこへ別なものが溶けて付着するという意味ではなく、zu の次にくる名詞の概念は、動詞によって示された動作が行われた後にはじめて生まれ出る「結果」である。

Der Schelm sitzt überall im Vorteil. Auf dem Armensünder-Stühlchen hat er den Richter **zum Narren**; auf dem Richterstuhl macht er den Inquisiten mit Lust **zum Verbrecher**. Ich habe so ein Protokoll abzuschreiben gehabt, wo der Commissarius schwer Lob nud Geld vom Hofe erhielt, weil er einen ehrlichen Teufel, an den man wollte, **zum Schelmen** verhört hatte. (Goethe: Egmont) どこを見ても悪党は旗色がいいね。被告席では裁判官をなめている, 判事席では被告を罪に落として快哉を叫んでいる。わしも一度そういう調書の写しを仰せつかったことがあるが, それで見ると, お役人の奴め, これぞと目星をつけた, しかも何の落度もない男をつかまえて, 訊問の手加減一つでまんまと悪人にしおおせた大功によって宮廷から大変なお褒めにあずかった上, おまけに金一封拝領なんてのがあからあきれたね | Die Wissenschaft hat den Menschen zwar **zum Herrn der Erde**, aber auch **zum Sklaven der Maschine** gemacht. 科学は人間を地上の君王になしたとともに, また機械の奴隷にもした | Wird es möglich sein, die

europäischen Völker **zu einem einzigen Staate** zu vereinigen? 欧州各国を統一してもって一個の国家となすことが出来るであらうか? | Die ganze Wunde ist nun **zu einer kaum noch erkennbaren Narbe** zusammengeheilt. さしもの傷も今ではすっかりなおって、ほとんどあとがわからない程になってしまった | Die Amöbe hat sich mit der Zeit durch verschiedene Tierarten **bis zum Menschen** entwickelt. アメーバは時とともに諸種の動物を通過して人間にまで発展した | Die späteren Dichter haben das Originalwerk **zu einem elenden Kitsch** verhunzt. 後世の詩人が原作に手を加へて浅ましいいかものに変えてしまった | Auch ein flüchtiger Gedanke läßt sich **zu einem Entwurf großen Stils** ausarbeiten. ちよとした思いつきでも丹誠して手を入れていると一大計画が出来あがる | Der Wind hat die gefallenen Blätter an einer Ecke des Hofes **zu einem Haufen** zusammengefeigt. 風が落葉を掃き集めて空地の隅に小山を作つてしまった

♥ 「④ 結果挙述の zu」を用いる場合の動詞はすべて意味形態が **machen** もしくは **werden** である。たとえば Die Teile verbinden sich **zum Ganzen**. 「部分が結合して総体をなす」ならば、verbinden の「意味」は「結びつける」であるが、その「意味形態」は **machen** 型である。また sich verbinden ならば、その「意味」は「結びつく」であるが、その「意味形態」は **werden** である。

machen, werden の意味形態に属する動詞、熟語は無限に存在するから、日本語の表現いかんにかかわらず、「ある動作の結果としてできあがる状態」を名詞をもって表現しうる場合には、上のような構文を用いて極く簡単に言い表すべきである。

♥ 「④ 結果の zu, 結果挙述の zu」は「結果の in」, 「結果挙述の in」と同じ用法である。ただし: 1) in は、変化する「経過」と「移り行き」をじょじょに進んでいく過程として表現するが、zu は移り変わって到達した最後の状態におもに注目させる。2) in は到達の目的がハッキリしないで、時には無限なることを思わせるが、zu は、到達すべきところに到達すればそれでハッキリと形がつくことを思わせる。

ただしこの区別は in または zu そのものの持っている概念であって、動詞そのものをも共に含め、かつ動詞の意味そのものを主にして考えると、in も zu もともに結果を指すのであって、語句総体の用法としては別にたいした区別はない。むしろ動詞について、それが慣習としていずれを自然に要求するかを辞書で調べるのが実用向きである。また in でも zu でもよろしい場合が多い: sich **in/zu etwas** ausarten ... に墮する, 悪化する。

【和文独訳の実際: S. 62-66; 独作文教程: S. 448-450; 文例集 (29) 前置詞, S. 699-701, 706-717】

♥ 偶発事件, 突発事件を報告するには **Es kommt zu ...** という形式がしきりに用いられる。「云々するに至った」, あるいは「云々を見るに至った」, 「云々し始めた」などの日本語を翻訳するのに好適である。非人称主語 es をともなう非人称的成句であることを銘記する必要がある。

Zwischen Holland und Indonesien **kam es** endlich **zu einem provisorischen Vertrag**. オランダとインドネシアの間にはついに一時的協定の成立を見るに至った | Gestern abend bei der Kinovorführung **kam es zu einem schweren Unfall**. 昨夜, 映画を上映中一大惨事が突発した | Trotz der heiklen Spannung werde **es** hoffentlich **zu keinem Krieg kommen**. この微妙な緊張にもかかわらず, おそらくは開戦を見るには至らざるべしと | Mein Lieber, wenn wir so fortfahren, **kommt es** sicher **zu einem Skandal!** おい君, こんな調子でやっている, 今にきつととんだ恥をかくようなことになるぜ | Wir werden sehen, mit der Zeit wird **es** sogar **zu einer Verlobung kommen**. 今に見ろ, 時のたつうちには婚約なんてことにならないとも限らないぜ

この語法は, 人生, 社会, 史的過程など, 要するに人間対人間の関係において, 単なる一個人の意志によってではなく, 「自然的な結果」として, 「偶然」に, あるいは「物事のごく自然ななり行きとして」何事かが偶発する時に用いるのであって, 「... するに至った」という日本語が必ずこの **es kam zu ...** で訳されるというのではない。たとえば「彼は長年の努力の結果ついに自分の宿望を果たすに至った」などは, 問題の中心が個人であるという点ですでに **es kam zu ...** が使われない(使うとすれば **er kam zu ...** を用いる)。 **es kam zu ...** が用いられるのは, 事件の原因が(または行為の主体が) 特定の個人ではなく, 数名の個人の間関係の自然のなり行き, あるいは自然界社会の偶然など, 何か個人の意志に関係のないいわゆる「客観的情勢」に帰せられなければならない場合である。

【和文独訳の実際: S. 41-43】

⑤ als (「として」と同じ) **zu**

Zum Beweis könnte ich anführen, daß ... 証明としてこれこれの事実を引用することができる (= **Als Beweis** könnte ich anführen, daß ...)

♥ als は「目的関係」を含むことが多く, その場合には **zu** による解釈の方が自然になってくる。

♥ 上例は als と **zu** が同意に用いられている例であるが, 語によると als の方は用いられないで, もっぱら **zum, zur** の方が慣習になってしまっているのも多い。

zum Beispiel, zum Scherz, zur Abwechslung, zum Versuch, zur Probe, zur Warnung, zur Entschuldigung, zum Gruß, zum Zeichen des ..., usw.

Zur Strafe mußte Peter eine halbe Stunde nachsitzen. 罰として Peter は半時間のお留めおきをくった | **Zum Vorbild** möchte ich dir Hesse vorschlagen. お手本としては Hesse をおすすめしたいね | Er reichte mir eine silberne Zigarettendose **zum Pfand**. かれは担保として銀製のシガレットケースをさし出した | Ich will keinen Heiratsschwindler **zum Sohn!** おれは結婚詐欺師などを息子に持ちたくないのだ! | Er ließ den Motor **zur Probe** anspringen. かれは試みに発動機を廻してみた | Die Ballade hat eine

dramatische Handlung **zum Inhalt**. バラードは何か劇的な筋を内容として持っている | Er reichte mir die Hand **zum Friedenszeichen**. かれは友好の印として握手をもとめた | Was hat er denn **zur Entschuldigung** vorgebracht? かれは申しわけとしていったいどんなことを言った? | **Zur Waffe** hatten wir nichts als Fleischarmesser. 武器としては肉切包丁しかなかった | Wir fassen ein Gesetz begierig an, das unsrer Leidenschaft **zur Waffe** dient. (Goethe: Iphigenie auf Tauris) 人は己が感情の武器として役立つ法文は得たりかしこしと楯にとるものである | Es war eine große Hungersnot auf der Insel, und die Eingeborenen fanden nichts als Graswurzeln und Baumrinde, oder höchstens nur Quallen **zur Nahrung**. 島は非常な飢饉で、原住民たちの食べるものといつては草根木皮、あるいは高々くらげ位しかなかった | Ich will dir meine einzige Tochter **zum Weibe** geben. わたしは、おまえに、わたしの一人娘を妻にくれてやろう | Der Esel trage die Säcke, / Habe Stroh **zum Lager** und finde Disteln **zur Nahrung**. / Will man ihn anders behandeln, so bleibt es doch immer beim Alten. (Goethe: Reineke Fuchs) ロバは袋を運ぶがよい、わらの寝床に寝るがよい、あざみを食うのが分相応 — 優遇したとてロバはロバ、ロバはどうにもなりやせぬ | Gott will nicht engherzige Gemüter und leere Köpfe **zu seinen Kindern**, sondern er verlangt, daß man ihn erkenne, (Hegel: Die Vernunft in der Geschichte) 「神は心の狭さとか頭の空っぽさを自からの子として望みはしない。人々が彼を悟ることを求めるのである」

♥ 次の例をはじめ、「④ 結果の zu」に通じてくる場合がある。

Heraklit, der weinende Philosoph, wählte sich einen Berg **zu seiner Wohnung**, und lebte da von Kräutern in der Gesellschaft der wilden Tiere. 「涙の哲学者ヘラクレイトスは山を住まいとして選び、野生の動物たちとともに野草を食べて生活した」

♥ 場合によると、同じ動詞でも、als と zu との間にはほとんど慣習という以外に何の相違もなさそうに思われることが起こってくる。例えば「任に就ける」という einsetzen は、「市長」などの場合は jemanden **als Bürgermeister einsetzen** が通りがよいが、「相続人」や「後見役」の設定の場合には古い伝統にしたがって jemanden **zum Erben (zum Vormund) einsetzen** でないといけないようである。

♥ 「として」と「に」との関係は、上例の meine einzige Tochter **zum Weibe** geben の zum Weibe 「妻として、妻に」で考えればわかる。動作名詞の場合は、たとえば zur Abwechslung は「目先の変ったこととしては」でもあり、「目先を変えるために」でもある点を考えるとわかる。

♥ 冠詞用法の上から特に確認を要することは、als の場合には「挙示的掲称」の述語として無冠詞になるが、zu の場合には、別に対して根拠もない温存定冠詞が用いられるという点である。

【冠詞 III: S. 464-466; 独作文教程: S. 493-495; 文例集 (29) 前置詞, S. 639-664, 682; 文例集 (76) w-z, S. 86】

⑥ 目的表現の zu

Bäume pflanzt man nicht immer nur *zur Verschönerung der Anlage*, sondern ebenso oft auch *zur Verdeckung irgend eines Schönheitsfehlers*, der dem Gebäude etwa anhaften möchte. 木を植えるのは必ずしも邸内を美化するがためのみではなく、建物に何か不体裁な所があるのを隠さんがためであることも相当多い

♥ 上の *zur Verschönerung der Anlage*, *zur Verdeckung irgend eines Schönheitsfehlers* はそれぞれ, **um** die Anlage **zu** verschönern, **um** irgend einen Schönheitsfehler **zu** verdecken の省略形と考えることができる。すなわち, **um** ... **zu** + 不定句は, その不定句を名詞の形で言い換えうる場合には, 動作名詞 (nomen actionis) に **zu** を前置することによって, 一文肢に短縮することができる。

zum Emphange der Gäste = **um** die Gäste **zu** empfangen 客を迎えるために | *zum Schutz der Alpenflora* = **um** die Alpenflora **zu** schützen 高山植物をまもる為 | *zur Erleichterung des Verständnisses* (od. *zum leichteren Verständnis*) = **um** das Verständnis **zu** erleichtern 理解を容易ならしめんがために | *zur Erreichung des Zieles* = **um** das Ziel **zu** erreichen 目的達成の為め | *zur Bekämpfung des Lärms* (*zur Lärmbekämpfung*) = **um** den Lärm **zu** bekämpfen 騒音防止の為め | *zur allgemeinen Warnung* = **um** alle Welt **zu** warnen 一般人を戒しめる為め | *zur weiteren Ausbildung* = **um** sich weiter auszubilden (od. ausbilden **zu** lassen) なお上級の教育を受けんとして | *zum Selbstunterricht* = **um** sich selbst **zu** unterrichten 独修の目的で | *zur Vermeidung aller Mißverständnisse* = **um** alle Mißverständnisse **zu** vermeiden 一切の誤解を避けんが為め | *zum Schadenersatz; zur Entschädigung* = **um** den Schaden wieder gut **zu** machen 損害を賠償せんが為め

「zum 不定形名詞」の例

Wenn es regnet, so hängen wir die Wäsche auch in der Küche *zum Trocknen* herum. = Wenn es regnet, so hängen wir die Wäsche, **um** sie **zu** trocknen, auch in der Küche herum. 「雨が降ると, 私たちは洗濯物を乾かすためにキッチンにもつるすんですよ」 | *Zum Reisen* muß man vor allem Geld haben. (*Zum Reisen* gehört vor allem Geld.) = **Um zu** reisen, muß man vor allem Geld haben. 「旅行するには何よりもお金が必要です」 | Das Wasser hat nicht die *zum Schwimmen* nötige Tiefe. = Das Wasser ist nicht tief genug, **um** darin **zu** schwimmen. 「水は泳ぐのに十分な深さがない」 | *Zum Lesen* braucht man nicht allein Bücher, sondern auch Zeit. = **Um zu** lesen, braucht man nicht allein Bücher, sondern auch Zeit. 「読書のためには本だけではなくて, 時間も必要である」 | Jetzt endlich hatte er Zeit und Gelegenheit *zum Nachdenken*. = Jetzt endlich hatte er Zeit und Gelegenheit, **um** nachzudenken. 「彼は今になってやっと, じっくり考える時間と機会を持った」 | Stanniol dient *zum Einwickeln* von Schokolade und dergleichen. = Stanniol dient dazu, **um** Schokolade und dergleichen einzuwickeln. 「アルミ箔は, チョコレートとかそういうものを包むのに役たつ」 | Thermit braucht *zum Verbrennen* von außen her keinen Sauerstoff. = Thermit braucht,

um zu verbrennen, von außen her keinen Sauerstoff. 「テルミットは、燃焼するのに外部から酸素を必要としない」 | Wir hielten die Rosse eine Weile an **zum Verschnaufen**. = Wir hielten die Rosse eine Weile an, **um** sie verschnaufen **zu** lassen. 「私たちは馬たちに一息させるためにしばらくの間止まった」 | Um 10 Uhr wird eine Pause eingelegt **zum Hinausgehen und Rauchen**. = Um 10 Uhr wird eine Pause eingelegt, **um** hinaus**zu**gehen und **zu** rauchen. 「10時には外に行ってタバコを吸う休憩を入れます」 | Es gibt Frauen, die sich in ihrem reiferen Alter bloß **zum Mutterwerden** nach Männern umsehen. = Es gibt Frauen, die sich in ihrem reiferen Alter nach Männern umsehen, bloß **um** Mütter werden **zu** können. 「女盛りの時にただ母親になるためだけに男たちをさがしまわる女性たちがいるものだ」 | Mancher arbeitet doch nur **zum Geldgewinnen**. ただお金だけのために働く人が多いからなあ！ | Vor lauter Menschen sieht man die Menschen nicht: dies ist das Unglückselige am Alltagsleben. Wie wenige haben noch eine Ahnung von der tiefgründigen Wahrheit menschlichen Daseins, daß wir eigentlich **zum Lieben** und **zum Geliebtwerden** geboren sind! 人間がい過ぎて人間が見えない、これが日常生活の浅間しさである。我々は元来愛し愛されんが為めに生まれて来たのであるという、この深刻な人生の真理を心に感じている人が果して幾人あるであらうか？

Wollen Sie mich **zum Versuch (zur Probe)** eine Zeitlang in den Dienst nehmen? 試しに僕をしばらく貴君の所で使つて見てくれませんか? | Wir wollen **zum Vergleich** eine Tabelle aufstellen. 比較の為に一つ表を作つて見ようではないか | Hier habe ich mir **zur Erinnerung** ein Zeichen gemacht. 念の為にここに印をしておいた

♥ 利害関係を念頭に置いた「目的」の表現: ある者の「為め」を図る, あるいはある事柄の「為め」に有利に導く, という意味の「為め」は, もっとも一般的なものは für であるが, なおそれ以上の細かい意味合いに応ずるために, 多少の形式を心得ておく必要がある。(佐藤注: 「独作文教程, s. 488」には, 以下の zu ... の例のほか, für ...; um ... willen; zugunsten ...; behufs ...; ... wegen; ... halber; ... zuliebe; ... zu Gefallen; im Interesse + 2格; im Namen + 2格があげられている)

zum Besten der schaulustigen Öffentlichkeit = zu Nutz und Frommen der schaulustigen Öffentlichkeit = zur Erbaung (usw.) der schaulustigen Öffentlichkeit 一般観衆の為に | **zum Besten des Weltfriedens = zum Behuf des Weltfriedens = zur Aufrechterhaltung (usw.) des Weltfriedens** 世界平和の為に | Die sogenannten Memoiren und Erinnerungen, die die großen Männer der Vergangenheit **zu Nutz und Frommen der Nachwelt** niedergeschrieben und hinterlassen haben, werden darum hochgeschätzt, weil in ihnen immer von etwas Selbsterlebtem die Rede ist. 過去の偉人達が後世の為に書きのこしておいた回想録, 思い出の記といったようなものが珍重されるのは, それらにはすべて自己独特の体感が書いてあるからである

♥ 用途 (Bestimmung) は主として für または zu によって表現される: 「~の目的」に供せられる

(dienen; bestimmt sein), に用いる (gebrauchen; benutzen; sich bedienen; verwenden), に役立つ (taugen; brauchbar, verwendbar sein), に適する (sich eignen; geeignet sein), に支出する (ausgeben), に貯える (aufsparen; aufbewahren), に準備する (in Bereitschaft halten), に組織する (organisieren), に寄付する (stiften), に寄付を募る (sammeln), に建築する (bauen), に編纂する (verfassen), に派遣する (aussenden), に [人員を] 繰り出す (einsetzen; aufbieten) などの句局における「～の目的『で』」, 「～の目的『に』」は zu または für である。

zum Zweck des Krieges = zu Kriegszwecken 戦争の目的に | **zum Zweck des Unterrichts = zu Unterrichtszwecken** 教授用の目的に | **zum Zweck der Wissenschaft = zu wissenschaftlichen Zwecken** 学術上の目的に | **zum Zweck der Erbauung = zu Erbauungszwecken** 修養の目的に | **zum Zweck der Wohltätigkeit = zu Wohltätigkeitszwecken** 慈善の目的に

必ずしも Zweck という語を用いずに, **zum Krieg** (od. für den Krieg); **zum Unterricht** (od. für [den] Unterricht) などで十分意を達しうる場合があるのはもちろんである。

ein Buch **zum Nachschlagen** 検索用の書物 | Pflaster **zum Ankleben** 貼付用の膏薬 | Chlorkalk **zum Desinfizieren** 消毒用石灰 | Metallbecken **zum Händewaschen** 手洗い用の金だらい | eine Gelegenheit **zum Auswandern** 海外移住のチャンス | Feile **zum Schärfen der Sägezähne** のこぎり目立て用のやすり | Maschine **zum Aufbrechen des Eises** 砕氷用の機械 | Heizvorrichtung **zum Trocknen der Wäsche** 洗濯物乾燥用暖房装置 | Ersatzmannschaft **zum prompten Einspringen** 応急予備人員 | Werkzeug **zur Bestimmung der senkrechten Richtung** 垂直方向測定の器具

【独作文教程: S. 482-493; 冠詞 I, S. 803-805; 文例集 (29) 前置詞, S. 703; 文例集 (76) w-z, S. 104-114, 115】

⑦ 程度誇張の zu

bis zur Verwechslung ähnlich または [bis] **zum Verwechseln** ähnlich 人違いするほど似ている | Ihr Herz klopfte **zum Zerspringen**. 彼女の心臓は破裂せんばかり動悸を打った | Das Kinotheater war **zum Erdrücken** mit Menschen gefüllt. 映画館は押しつぶされるほど人間で一杯だった | Meine Frau kennt meine Charaktereigenschaften **zum Verzweifeln** genau. 私の妻は実に全くやり切れないほどよく私の性質を知っている | Da liegt sie, die Insel, **zum Greifen** nah. あれだ, あの島だ, 手をのばしたら届きそうなところにある | Darüber haben wir uns schon **bis zum Erbrechen** auseinandergesetzt. その件はもうお互いにヘドが出るほど論じあったじゃないか

♥ bis zu または zu は, 「頭が痛くなるほど考えた」, 「いやというほどぶつかった」, 「飛び上がるほど喜んだ」などの「...ほど」に用いることがあるが, その際もっとも結合しやすいのは zum と不定形名詞である。

♥ 「程度誇張の zu」は、「展張限度」という観点からも説明される（「展張限度の [bis] zu」, 冠詞 I, S. 1041）。

同じく程度^の極端なことを表現するのにも、「終始点を考えぬ」展張限度の bis in [... hinein] と、「終始点そのものを指す」限度の [bis] zu とは別物である。また、そこに用いられる名詞の意味形態も違って来なければならない。たとえば「かれは徹頭徹尾諧謔家である」という意味のことを言おうとするとき、「かれは指先に至るまで諧謔家である」Er ist bis in die Fingerspitzen hinein Witzbold. といえ、指先は身体の末端で、いわゆる総身に廻りかねる大男の知恵を考えてもわかる通り、普通の考え方によると、精神や性格の中枢から遠く離れた辺陲の「領域」として考えるから in die であるが、もしこれを「かれは全身すべてこれふざけた機智ではち切れんばかりに充溢している」（Er steckt zum Zerplatzen voll närrischer Einfälle.）と表現するとすれば、「はち切れる」という動作は、別に面積や広がりをもった領域ではなく、はち切れた日にはそれがモウおしまい、それが取りも直さず「展張限度の最後の終始点」を意味するわけであるから zu を用いるのはごく自然である。不定形名詞の場合は必ず zum である。

Er ist dir zum Verwechseln ähnlich. 「彼は君と見まちがうほど似ている」 | Der Saal war [bis] zum Erdrücken voll. 「ホールは押しつぶされそうになるほどいっぱいだった」 | Ihr Herz klopfte zum Zerspringen. 「彼女の心臓は張り裂けそうなほどドキドキした」

不定形名詞ばかりではない、状態を意味する抽象名詞、その後も同様である。

Das ist ja bis zur Handgreiflichkeit deutlich. 「それは手にとって見ることのできるほどあきらかだ」 | Die Leiche war bis zur Unkenntlichkeit verstümmelt. 「死体は見分けがつかないほどバラバラであった」 | Er hat die Kunst, zu lügen, bis zur Meisterschaft ausgebildet. 「彼は嘘をつくという術を名人芸にまでしたてていた」 | Selbstvertrauen besitzt er bis zur Unverschämtheit. 「自信というものを彼は恥知らずなほど持ち合わせていた」 | Sie freute sich bis zu Tränen. 「彼女は泣き出しそうなほどに喜んだ」 | Muß man pünktlich sein bis zur Pedanterie? 「そんなに時間厳守じゃなけりゃいけませんか？ 杓子定規になるほど？」

♥ 以上の zum Erbrechen, zum Verwechseln などはずべて、形容詞付加的であるか、動詞付加的（副詞的）であった。その形容詞を省くと、次の「感嘆の zu」となる。

【冠詞 I: S. 815, 1041; ドイツ語学講話: S. 470-482; 文例集 (76) w-z, S. 137-138】

⑧ 感嘆の zu

Oh, es ist zum Totlachen! ちゃんちゃらおかしいや | Nun, es ist rein zum Tollwerden! たまらないよ全く | Ist ja zum Bäumeklettern. あきれたもんだな | Da solltest du einmal nachts da sein. Das ist, wenn

man nicht wie ein Bär schläft, **zum aus der Haut fahren**. (Helene Böhlau: Der Rangierbahnhof) 一度まあ夜来てごらんよ。熊みたいに熟睡する人ならどうか知らんが、とにかくやり切れたもんじゃないぜ | FRÄULEIN ANNA: Sie sind ja poetisch beinah, Herr Doktor!—JOHANNES: Das ist auch durchaus **zum Poetischwerden**. (Hauptmann: Einsame Menschen) FR. 先生はずいぶんロマンチックなのね。— J. 冗談じゃない、ロマンチックになんかなれた義理じゃないですよ、あなた

♥上の「⑦程度誇張の zu」の一種である。述語的に用いる。

♥必ず zum と不定形名詞であり、決して他の動作名詞 (-ung そのほか) とは用いられない。

♥たとえ文をなすほどの複雑な句でも、必ず単一な不定形にまとめることが必要で、前に形容詞が冠置されたり、後ろに2格規定その他が付置されたりしてはならない。

♥長い句のときには um ... zu 不定句を用いる。Es ist **zum Haareausraufen!** 「つくづくイヤになっちゃう！」は Es ist, **um sich die Haare auszuraufen!** とも言える。非常に長くなると um ... zu による以外に方法がない。

Zu Ende war die kurze Ruhestunde, der armselige verlorene Frieden; — die alte Unruhe, der alte Lärm und Schmutz, die alte Unzucht richteten von neuem ihr Reich in dem Siechenhause von Krodebeck auf! O, es war, **um sich unter die Erde, in die letzte Ruhe, in den letzten Frieden — in den feuchtesten, schlechtesten Winkel des Kirchhofes, unter die Nessel, welche der Totengräber in der Mauerecke aufhäufte, hinabzuwünschen!** (W. Raabe: Der Schütterump) 「わずかないこいの時、みじめで希望のない安らぎの時は終わりを告げた。もとの不安と騒ぎとよごれ、そして昔のふしだらが、クローデベックの老人施療院にもどってきた。ああ、それは、土の下や最後の静寂、最後の安らぎへ、そして墓場の一番湿った、一番みじめな片隅へ、また墓堀り人が塀の片隅に積み上げたイラクサの山の下へ入り込んでしまいたいくらいのものであった」

【冠詞 I: S. 815-816; ドイツ語学講話 : S. 470-482】

⑨「主観的副詞句」を作る zu

♥「主観的副詞 [句]」とは、「判断を意味する副詞 [句]」とも呼ばれ、文全体の基礎となっている判断を表現するものである。例えば以下の例文における太字の語句である。

Zu dummen Fragen wird **am besten** geschwiegen. 愚問に対しては答えざるをもって最も可となす | Man identifiziert die Bildung **mit Unrecht** mit der Gelehrsamkeit. 教養を博学と同一視するのはけしからん | Ich kann heute **unmöglich** mit Ihnen Ausflug machen. 私は今日あなたと一緒に遠足することはできません

主観的副詞 [句] としてはほかに例えば次のようなものがある。

mit Recht 「... するのは至当だ」, mit Grund 「... するのには相当の根拠がある」, umsonst, vergebens, vergeblich 「... するのは無駄だ」, besser 「... した方がよい」, richtiger 「... した方が正しい」, fälschlich 「... するのは誤りだ」, am zweckmäßigsten 「... するのが最も合理的だ」

このほか、-weise (あるいは -maßen) の語尾のあるもの、および zu をともなう句が多い。

unglücklicherweise 「不幸にも」, merkwürdigerweise, sonderbarerweise 「不思議にも」, bedauerlicherweise, leider 「残念なことには」, überflüssigerweise 「余計にも、ご丁寧にも」, irrtümlicherweise 「間違っ」, **zu meiner Freude** 「嬉しいことには」, **zu meinem Erstaunen** 「驚いたことには」, **zum Glück** 「幸いにも」, **zu meinem großen Leidwesen** 「はなはだお気の毒なことには」, **zu meiner Schadenfreude** 「いい気味なことには」

♥ とくに zu の句は、独作文の時の意外な場合を簡単に解決するものであるから、特に注意して用法を会得すべきである。

Zu meiner Freude kam er heim. 私にとってうれしいことには彼が帰ってきた

この zu の句は、日本語では「... には」と言えば、少し変だが、ほぼ意味形態の表現ができる。zu という前置詞のために、よく「目的」と誤りがちであるが、「私を喜ばせようと思って彼が帰ってくる」のではない。彼は何も知らずに帰ってくるのだが、それが私の立場からは喜ばしいという結果になるのである。

zu meinem Glück 私にとって幸いな事には | **zu seiner Freude** 彼にとって嬉しい事には | **zu meinem Bedauern** 私にとって残念な事には | **zu ihrem Verdruß** 彼女にとって腹立たしいことには | **Zu meinem Schaden** hat er gesiegt. 私にとって損なことには、彼が勝利を得た | **Zu meinem Ärger** war es schon aus. 癪なことには、もうすんだ後だった | **Zu meinem größten Leidwesen** muß ich Ihnen die Freundschaft kündigen. まことに残念なことながら、あなたに絶交の申し渡しをいたさねばなりません | Er spricht **zum Glück** Deutsch. 「彼は幸運なことにドイツ語を話す」 | **Zum Verdruß der Hausfrau** bleibt der Gast bis zum Abendessen. お客が晩飯のころまで居すわるので奥様が憤慨する | **Zu meinem großen Bedauern** muß ich zwingender Umstände wegen von der gestern getroffenen Abmachung vorerst zurücktreten. はなはだ遺憾ですが、やむを得ない事情のために、昨日取り極めた件は一応撤回させていただきます | Erstmals hat er das Geschäft von selber angetragen und dann **zu meiner großen Verwunderung** wieder rückgängig gemacht. 最初彼は自分から相談を持ちかけておきながら、私にはどうも全然わけがわからないが、また引っ込めてしまった | Nun muß ich **zu meiner Beschämung** gestehen, daß ich von allem, was zurzeit draußen in der Welt geschieht, so gut wie gar nichts weiß. さてお恥かしい次第ですが、私は目下世界に起りつつある事柄に関しては、じつは殆んど何一つ知らないと言ってもいい位

なんです | Als ich endlich den Korrekturbogen zugeschickt erhielt, da mußte ich finden, daß ich, *mir selbst zum Entsetzen*, etwas ganz Ungeheuerliches geschrieben hatte. とうとう校正刷が届いてみると、自分ながらあきれ返ってしまったが、これはどうも飛んでもない事を書いたものだと思わざるを得なかった

【独逸語大講座 (6 巻本), 第 4 巻: S. 386-387; 独作文教程, S. 81-83, 183-184; 冠詞 II, S. 381; 和文独訳の実際: S. 163-168】

【佐藤】この「主観的副詞句」と前項の「結果の zu, 結果挙述の zu」との違いは、「規定関係」が異なることである。前項の Die Wissenschaft hat den Menschen *zum Herrn der Erde* gemacht. では, zum Herrn der Erde が動詞 gemacht を「規定」している。それに対して本項の *Zu meinem Schaden* hat er gesiegt. の例文で言えば, er hat gesiegt が zu meinem Schaden を「規定」しているのである。それは, この文が *Es ist schade*, daß er gesiegt hat. とも言えることから分かる。(参照: 冠詞 III, S. 543-544)

⑩ zu 不定句一般の略形としての zum 不定形名詞

♥いかなる筋路に属する zu 不定句であるにせよ, 簡単に要約できるものはすべて「zum 不定形名詞」で表現することができる。(ただし下の ♥を参照)

Mein Eid verpflichtet mich [dazu], **zu schweigen**. = Mein Eid verpflichtet mich *zum Schweigen*. 「誓いを立てたのでしゃべるわけにはいかない」 | Euer Name ist schwer **auszusprechen**. = Euer Name ist schwer *zum Aussprechen*. 「君たちの名前は発音が難しいね」 | Leider habe ich keine Vollmacht **zu handeln**. = Leider habe ich keine Vollmacht *zum Handeln*. 「残念ながら私は交渉する権利を持たないのです」 | Das ist noch kein Grund, **zu zweifeln**. = Das ist noch kein Grund *zum Zweifeln*. 「それはまだ疑う理由にはならないでしょう」 | Er hatte Anlaß, **verstimmt zu werden**. = Er hatte Anlaß *zum Verstimmtwerden*. 「彼にはご機嫌ななめになる理由があったのだ」 | Nun ist es Zeit, **aufzubrechen**. = Nun ist es Zeit *zum Aufbrechen*. 「さて出発の時だ」 | Der arme Vogel ist nicht mehr fähig, **die Flügel auszubreiten**. = *Zum Flügelausbreiten* ist der arme Vogel nicht mehr fähig. 「このかわいそうな鳥はもう羽をひろげることできない」 | Es ist jetzt keiner mehr berechtigt, **müßig sitzen zu bleiben**. = Es ist jetzt keiner mehr *zu müßigem Sitzenbleiben* berechtigt. 「何もせずにすわったままにいる権利をいまや誰も有しない」 | Bist du jetzt willig, **mit anzupacken**? = Bist du jetzt *zum Mitanzupacken* willig? 「君は手を貸す気があるかい?」 | Das war ja nur ein Versuch, **sich durchzusetzen**. = Das war ja nur ein Versuch *zum Durchsetzen*. 「それは単に自己主張しようとしたにすぎなかったんだよ」

♥ただし, 「zum 不定形名詞」に要約することのできる zu 不定句は, その意味形態が「**zu 的な性格**」のもの, すなわち, 「**未然的, 企画的な意味形態**」のものでなければならず, たとえば「換言的に規定する場合」(つまり daß 的性格のもの)は「zum 不定形名詞」に要約することは許されない。たとえば *Es ist eine müßige Beschäftigung*, **Verse zu machen**. を **Es ist eine müßige Beschäftigung zum Verse machen*. と言ったり, *Sein Steckenpferd*, **Verse zu machen**, kann ich nicht gutheißen. を **Sein*

Steckenpferd zum Verseemachen kann ich nicht gutheißen. と言ったりすることは許されない。それに反して、たとえば「傾向」(Hang, Neigung) は未然的・企画的な zu 不定句を要求する観念であるから、der Hang zum Verseemachen という結合が許される。(zu 不定句の「zu 的な性格」については、下記【佐藤】を参照)

【冠詞 III: S. 464-466; 独作文教程: S. 493-495】

【佐藤】 関口は、「zu 不定句」が本来その構造の上から持っている性格と傾向を次の8つに分けて説明する。

- a. **zu 不定句の名詞的性格:** zu を伴う不定句は、全体が一つの名詞のごときのものであって、たとえば *passende Worte zu finden* は「適当な言葉を見つけること」という「こと」よって暗示される程度の(但し、単にその程度のみ)名詞的性格を具えている。この点は *daß ... 「...であるということ」* と同じである。また両者とも「『事』型名詞の性格」であって、「者」型や「物」型ではない。
- b. **zu 不定句の文章的性格:** zu 不定句は、その名詞的性格にもかかわらず、やはり依然として文章の一種である。*daß ...* も同じ。
- c. **zu 不定句の非名詞的性格:** 名詞的であるとはいえ、*passende Worte zu finden* は *das Finden passender Worte* ほどの程度に名詞的なわけではない。また英語の *finding suitable words* よりも名詞的性格において劣るところがある。まず *to find suitable words* の程度、あるいはそれよりはいくらか名詞性が強いぐらいの程度である。
- d. **zu 不定句の非文章的性格:** 文章であるといっても、*daß ...* のごとき副文章、従属文とはちがう。それは、主語がなく、基礎が定形ではなく不定形であり、要するに「不定」文章であるという点で *daß ...* の場合ほど「文章」ではない。
- e. **zu 不定句の zu 的性格:** zu は単なる形式的要素で、現在ではもはや zu という前置詞の空間的、時間的、ないしそれ以外の微妙な意味などは直接考慮に入らないと思うのは間違いで、やはり相当その原意を保有することが多いのである。すなわち、zu は、空間的には、「向かわんとする当面の目標」を指し、時間的には「目前に迫った将来」を指す。したがって *Ich bin bereit, dir zu folgen.* にせよ、*der Versuch, sich zu befreien* にせよ、*die Fähigkeit, etwas zu leisten* にせよ、とにかく、未だ実現せずして、これからまず実現しなければならないような、いわば眼前に横たわる未遂の行為の場合ももっとも zu にふさわしいとすることができる。
- f. **zu 不定句の2格的性格:** けれども、zu の原意を離れて、ほとんど2格の如き関係において、たとえば名詞に接続されることは、zu 不定句の一つの特徴をなしている：*Er steht im Ruf, ein ehrlicher Mann zu sein.* は現に英では *of*、仏では *de* で表現する：*He has the reputation of being an honest man; Il a la réputation d' être un honnête homme.*
- g. **zu 不定句の um ... zu ... 的性格:** たとえば *die Fähigkeit, etwas zu leisten* は「あることを成し遂げる能力」であると同時に、一面また「あることを成し遂げるために必要な能力」(すなわち *die Fähigkeit, um etwas zu leisten*) でもある。*Ein Mittel, sich durchzusetzen* 「初志を貫く手段」は同時に *Ein Mittel, um sich durchzusetzen* でもある。また「云々するために」という文は「um ... zu + 不定形」という方式のみならず、um を除いた単なる zu を伴う不定句のみによっても十分表現できることが多い。
- h. **zu 不定句の関係文的性格:** zu の有する「可能」、「適不適」、「能力」「義務」その他のあらゆる未実現行為的性格から発して、たとえば *Er ist der Mann, das zu vollbringen.* (*He is the [a] man to accomplish it; Il est homme à accomplir cela.*) のように、ほとんど関係文と同様に用いられる場合すら生じてくる。

【参照: 冠詞 I: S. 156-157. そのほか特に「zu 不定句の zu 的性格」については以下を参照: 冠詞 I: S. 175-192, 807-808; II: 568】

⑪ 「zu + 形容詞・副詞」, 「形容詞・副詞 + genug」とともに用いられる「zu + 動作名詞」

um ... zu 不定句は, 目的表現にのみならず, 「zu + 形容詞・副詞」, または「形容詞・副詞 + genug」とともに用いられるが, これらもすべて「zu + 動作名詞」の省略形が可能である。

Hm! sagt man, wenn man zu faul ist **zum Mundaufmachen**. = Hm! sagt man, wenn man zu faul ist, **um** den Mund **aufzu**machen. 「口を開けるのが面倒くさい時には, フームと言うのである」 | **Zum Nachhausegehen** ist es noch zu früh. = Es ist noch zu früh, **um** nach Hause **zu** gehen. 「家に帰るにはまだ早すぎる」 | **Zum Philosophieren** ist jeder Mensch alt genug. = Jeder Mensch ist alt genug, **um zu** philosophieren. 「哲学するためにはどんな人間でも若すぎるといふことはない」

【冠詞 I, S. 805】

⑫ 空間的關係を無視した zu

hinein-, hinaus-, herein-, heraus- などの前綴りを持つ動詞には, 空間的關係を無視して zu を用いる傾向がある。はじめは入口なり出口なりを zu で表したのが, おしまいには場所全体に zu をつけるようになってしまったのである。これも凝結形式 (erstarre Formen) の典型的なものである。段々と変わっていく順序通りに並べてみると次のようになる。

Er geht **zum Tore** hinein. 彼は門から中へ入る

日本人は「門から」と言っ、て、「から」が正しいと思っている一方、ドイツ人は「門へ」と言っ、て「へ」が正しいと思っている。いずれが正しいか? ひょっとするとドイツの方が論理的かもしれない。

Der Dieb springt **zum Fenster** hinaus. 泥棒が窓から飛び出す

今度は日本語の方に軍配を上げたい。

Der aufgebrachte Vater wies den verlorenen Sohn **zum Zimmer** hinaus. いきり立った父は不良のせがれに部屋を出て行けと命じた

こうなるとドイツ語はどうかしている。「部屋から出る」を「部屋へ出る」と言う。これはあまりにひどい。まるで反対の言い方をする。凝結形式というのは先鋭化するとこんなことになってくる。最後に zu ... hinaus の極端な例をもうひとつ。これは熟語である。

Der König wies ihn **zum Lande** hinaus. 王は彼を国外に追放した

【独逸語大講座 (6 巻本), 第 3 巻: S. 268-269; 文例集 (76) w-z: S. 250-253】

⑬ für と同意の zu

Die Ameise, der Hamster, die Biene sammeln Vorräte **zu dem ihnen unbekanntem Winter**. (Welt als W. u. V.)
「蟻, ハムスター, 蜂たちは, 彼らがまだ知らない冬のために食料を蓄えるのである」

【文例集 (76) w-z, S. 117】

⑭ 傾向・目的の zu

Sie neigt ein wenig **zum Fettansatz**. 「彼女は太るきざしを見せ始めている」 | Sie hat eine Anlage **zur Hysterie**. 「彼女はヒステリーの性向がある」 | Die Menschheit neigt im allgemeinen von Natur **zur Bequemlichkeit und Trägheit**. 「人間というものは一般的に, 生まれながらにして怠惰と無精に傾くとしたものだ」

【文例集 (76) w-z, S. 79-81】

⑮ 空間的接近

zur Schule / zur Kirche gehen 「学校へ / 教会へ行く」 | etwas **zur Hand** nehmen 「あるものを手に取る」 | Wenn die radioaktiven Wolken in eine Regenzone geraten, dann ist es möglich, daß einige der radioaktiven Partikel mit den Regentropfen **zur Erde** fallen. (Zeitung 1955) 「放射能を帯びた雲が雨の域に入った場合, 放射性粒子のいくつかは雨粒とともに地上に落ちてくる可能性がある」 | “Erden“ heißt die Elektrizität **zur Erde** ableiten. 「erden とは, 電気を大地へ導くことである」 | Ohne Sang und Klang trug man die Schauspielerin **zu Grabe**. (L. Westkirch: Aus dem Hex. der Zeit) 「歌も歌わず, 音楽もかなでずに人々はその女優を墓へと運んだ」 | Die Frauen setzten sich **zu ihrer Arbeit**. (Immensee) 「婦人たちは仕事についた」 | Ein Kind kommt **zur Welt**. 「子供が生まれる」 | **Zur Messe, zur Beichte** bist du lange nicht gegangen. (Faust I) 「ミサに, そして懺悔に, あなたはもうだいぶ長くお行きにならないでしょう?」 | Ich habe ihn nicht mehr **zu Gesicht** bekommen. 「私はもはや彼に会っていなかった」 | Er läßt mich nicht **zu Worte** kommen. 「彼は私に話させようとしなかった」

抽象名詞と (現象としてはもっとも広汎)

zu etwas übergehen 「あるものへ移行する」 | Vom Besonderen **zum Allgemeinen** aufsteigen 「特別のものから一般的なものへと昇華する」 | Wir kommen also **zum Standpunkte**, den wir genommen, zurück. (Hegel) 「私たちはそういうわけで, はじめの観点へもどるのである」

【文例集 (76) w-z, S. 199-205, 206】

⑩ 対人関係の zu

Liebe der Kinder **zu den Eltern** ist ein Instinkt, der nur beim Menschen angetroffen wird. (Eduard Jung: Das konstitutive Prinzip in der organischen Natur) 「子供たちが両親に対して抱く愛情は、人類にのみ見いだされる本能である」 | Die Leute sind so nett **zu mir**, weil ich einen berühmten Mann zum Vater habe. 「人々は、私が有名な人間を父として持っていたものだから、とても好意的であった」 | **Zu seinen Kollegen** war er stets hilfsbereit und freundlich. (Zeitung) 「同僚たちに対して彼は、常に助けを惜しまず、友好的であった」

♥ 「相手の mit」と同じ。

【文例集 (76) w-z, S. 62, 96】

⑪ 時の副詞規定

Zu Weihnachten schickte ich ihr allerlei hübsche Sachen. (Heyse: Die schwarze Jakobe) 「クリスマスには彼女にいろいろと素敵なものを送った」 | **zum Geburtstag** etwas schenken 「誕生日にあるものを贈る」 | **Zu Anfang des 19. Jahrhunderts** war das Reisen eine umständliche und langwierige Sache. (R. Kron: German Daily Life) 「19世紀の初めには、旅行というのは手間と時間のかかるものであった」 | Kant brach jeden Nachmittag **zu genau der gleichen Minute** in der Prinzessinnenstraße auf und ging spazieren. 「カントは毎日午後まったく同じ時間に Prinzessinnenstraße を出発して、散歩に出かけた」 | Sie sind uns **zu jeder Zeit** willkommen. (Duden) 「どうぞいつでもいらしてください」 | **Zur Zeit der Inflation** mußte man ganze Pakete von Scheinen mitbringen, um eine Uhr zu kaufen. (Zeitung) 「インフレの時には時計ひとつ買うのに山ほどの札束を持って行かなければならなかった」 | Fast **zu jeder Jahreszeit** lief das Wasser von den Wänden. (Raabe: Hungerpastor) 「ほとんどいつの季節でも壁が汗をかいていた」

【文例集 (76) w-z, S. 158-172】

⑫ 予定の zu

Das Diner war **zu sechs Uhr** festgesetzt. (Th. Fontane: Frau Jenny Treibel) 「正餐は6時と決められていた」 | Unsere Köchin hat **zum ersten Juni** gekündigt. 「私たちの料理人は6月1日でやめたいと申し出ていた」

【文例集 (76) w-z, S. 157】

⑱ 町名・市名の zu

Im Wirtshause **zu Nörten** traf ich die beiden Jünglinge wieder. (Die Harzreise) 「ネルテンの居酒屋でその二人の若者にまた出会った」 | **Zu Wien** hielt er sich fast ein Jahr auf. (Keller: Hadlaub) 「ウィーンに彼はほとんど一年滞在した」 | Er war Professor der Physik an der Technischen Hochschule **zu Paris**. 「彼はパリ工科大学の物理学の教授であった」 | Er ist **zu Eisleben** geboren. (Duden) 「彼はアイスレーベンに生まれた」 | Der Dom **zu Köln** 「ケルン大聖堂」

【文例集 (76) w-z: S. 140-142】

⑳ 貴族の zu

Graf **zu Mansfeld** (Duden) | Marie Christiane Prinzessin **von und zu Liechtenstein** (Kristall)

【文例集 (75) von, vor: S. 65-67】

㉑ 屋号の zu

Der Gasthof **zum Roten Löwen** | Der Gasthof **zum Goldenen Hirsch**

♥ 「保有描写」表現の一種である。このような旅館（あるいは土地によっては邸）の名は、すべてそうした看板（Aushängeschild）を **tragen** ないし **führen** しているところから、フランス語の「保有の à」を真似た **zu** で表現したものであろう。

【冠詞 II: S. 19; 文例集 (76) w-z, S. 255-259】

㉒ 数規定の zu

Whisky **zu 1 500 Yen** die Flasche 一本千五百円のウイスキー | vier Bände **zu je 300 Seiten** それぞれ 300 ページから成る四巻 | sieben Eierkisten **zu je 200 Stück** たまごが二百はいった箱 7 個 | ein Jahr **zu 365 Tagen** 三百六十五日の一年 | ein Tisch **zu 6 Personen** 六人分の食卓 | Kapitalanleihen **zu niedrigen Zinsen** 低利の借款 | Drucksachen **zu ermäßigter Gebühr** 「割引価格の印刷物」 | Die Lieferung dieser Sorte erfolgt in Packungen **zu 10 und 20 Stück**. Eine Blechkassette **zu 50 Stück** ist in Vorbereitung. (Zeitung 1953) 「この銘柄は十本と二十本入り包装でお届けできます。五十本入りの缶はただいま準備中です」

♥ 価格、数の内容などをあげる。

♥ 「保有描写」表現の一種である。フランス語の「保有の à」を真似たもの。

♥ 「保有描写」がドイツ語の zu で表現されるのは、「数規定の zu」と「屋号の zu」に限られ、一般的にはやはり mit を用いる。(参照:「保有描写の mit」)

【冠詞 II: S. 19-20; 文例集 (29) 前置詞, S. 702; 文例集 (76) w-z, S. 123-134】

㊸ 副詞の最高級 zu ...st

副詞の最高級は、一般的には am ...sten であるが、場所、時、順序、程度などをあげる最高級には zu ...st の形がある。

zumeist	たいてい	zunächst	さしずめ
zuerst	まず最初に	zuletzt	最後に
zu innerst	もっとも中に	zu äußerst	もっとも外に
zu tiefst	もっとも深く	zu höchst	もっとも高く
zu oberst	もっとも上に	zu unterst	もっとも下に
zu vorderst	もっとも前に	zu hinterst	もっとも後ろに
zuvörderst	まず最初に		

♥ zutiefst, zuoberst など、1 語につづるも可。

♥ aller- を付してもよい: zu allerletzt, zu alleräußerst など。

Ich wohne **zu oberst** im Hause, in der Dachkammer. 「私は家の一番上、屋根裏部屋に住んでいる」 | Ich führe als Beispiel an, was sich **zunächst** darbietet. 「まずはじめに目についたものを例としてあげましょう」 | Die Zuhörer ziehen es vor, **zuhinterst** auf den letzten Bänken zu sitzen. 「聴衆は、一番後ろの席に座るのを好む」 | Der Fisch ist **zu innerst** noch nicht gar. 「魚は最後の芯のところがまだ生だ」 | Die Hemden liegen **zu unterst** in der Schublade. 「シャツは引き出しの一番下に入っている」

【新ドイツ語文法教程: S. 286; 文例集 (76) w-z: S. 261-264】

㊹ zu を使った迂言動詞

A. **zum (zur) ... kommen**: 自動相で、「... するに至る」

Der unwirtliche Frühherbst läßt die Früchte nur sehr langsam **zur Reife kommen**. 今年の初秋は天候不順のため果実の成熟がおそい | Der vom Strom durchflossene Draht **kommt** bald **zum Glühen (zur Weißglut)**. 電流を通じた針金はやがて灼(白)熱しはじめる | Das Tier **kommt** bei ihm **zum Durchbruch**. (Duden: Stilwörterbuch) この男、とうとう野獣性を曝露する | Die allgemeine Idee **kommt** im Staate **zur**

Erscheinung. (Hegel: Die Vernunft in der Geschichte) 一般理念は国家という形を取って実現する | Ich bitte Sie ein letztes Mal, **kommen** Sie doch **zur Besinnung.** (Schnitzler: Professor Bernhardi) これを最後にもう一度お願いします, どうぞ正気を取り戻して下さい | Es kann **zum Treffen kommen.** Vielleicht in der Stadt. (Gutzkow: Der Königsleutnant) 会戦になるおそれがある, ひょっとすると市中で | Der Prozeß ist schon drei Jahre anhängig und noch **kommt** es nicht **zum** (或いは **zu einem**) **Spruch.** 訴訟はすでに三年も続いているのにいまだ判決を見るに至らない | Im heutigen Rat **kams** noch nicht **zur** (或いは **zu einer**) **Entscheidung.** 今日の会議ではまだ決定を見るに至らなかった | Die Tiere haben ein merkwürdiges Gerechtigkeitsgefühl; wird eines von ihnen plötzlich bevorzugt behandelt, so kann es **zu recht unliebsamen und böartigen Schlachten kommen.** いったい動物という奴は一種特別な正義感情を持っていて, 彼等の仲間の一匹が突然優遇されたりなどすると, たちまちにして, すこぶる意地の悪い, 悪質な喧嘩の起ることがある

B. zum (zur) ... kommen/gelangen: 受動態の迂言表現

Meinungsverschiedenheiten **kommen** in einer heftigen Auseinandersetzung **zum Austrag.** 意見の相違が甲論乙駁の激論のうちに雌雄を決する | Bis unsere Kompanie **zum Einsatz kommt,** hat es noch Zeit. 我々の中隊が戦線に出されるまでにはまだ暇がある | Der neue Tonfilm **kommt** Freitag, 22. April, im Ufa-Palast am Zoo **zur Vorführung.** (Zeitung, 1941) 新しい声画は四月二十二日の金曜, Zoo 公園前の Ufa パレスで上映される | Der von den Sozialdemokraten gegen den Präsidenten eingebrachte Mißbilligungsantrag soll morgen **zur Verhandlung kommen.** 社民党が総理を相手取って提出した不信任動議は明日上程の予定 | Aber was viel wichtiger ist, nicht alle Vorteile, welche die Verteidigung darbietet, **kommen** wirklich **zur Anwendung.** (C. v. Clausewitz: Vom Kriege) けれども, それよりもっと重要なのは, 防禦する方が有利な場合においても, その有利な点が必ずしも全部活用されるとは限らないという, この一点である | In höfischen Kreisen **gelangt** die Oper und die klassische Symphonie **zur Entfaltung.** (Zeitung). 宮廷社会では, 歌劇と古典交響楽が発達をとげる | Zwei naturwissenschaftliche und ein Literaturpreis sind diesmal von der Nobelstiftung – übrigens im vierzigsten Todesjahr Alfred Nobels – **zur Verteilung gelangt.** (Zeitung, 1936) 今般は自然科学賞二目と文学賞一目がノーベル基金から—しかも今年は Alfred Nobel 没後ちょうど四十年目に当る—それぞれ授与された | Bei der Erweiterung des von deutschen Truppen in der Gegend von Oslo besetzten Raumes sind am 16. April – wie der Bericht des Oberkommandos meldet – auch deutsche Panzerabteilungen **zum Einsatz gelangt.** (Zeitung, 1940) ドイツ軍が占拠中のオスロー付近の地域の拡大作戦当って, 四月十六日, 最高指令部の報道によると, ドイツ軍戦車部隊も動員されたという | Nun war eines Abends der Apoll von Belvedere, als eine unversiegbare Quelle künstlerischer Unterhaltung, wieder **zum Gespräch gelangt.** (Goethe: Italienische Reise) ところがある晩のこと, 美術談に無尽蔵の話柄を提供する Belvedere のアポロが, またもや話題を賑わした | Allein was so im innersten Wesen der evangelischen Neugestaltung des Christentums angelegt war und sich

mannigfach in fruchtbare Praxis strebte, vermochte keineswegs *zu voller Durchsetzung zu gelangen*. (Rudolf Unger: Hamann und die Aufklärung) しかしながら、新教によるキリスト教の改造そのものの根本思想のうちに既に芽生えていて、色んな形で有望な實際化の道をたどりつつあったところの事柄も、どうも完全に成功することができなかつた

♥この場合の *kommen* は *zu* の代わりに *in* を用いる場合も多い。いったい、「流行」、またはその反対の「廃消」の意には *in* の方が普通である：*in die Mode kommen*, *in Gebrauch kommen*, *in Übung kommen*, *in Annahme kommen*. — *gelangen* の方は必ず *zu*.

C. *zum (zur) ... bringen*: 能動相・作為相の迂言動詞

Den werde ich *zum Stolpern bringen*! (W. Raabe: Vom alten Proteus) あの野郎、おれが今にけつまずかせてやるから見ていろ！ | Er hatte Mühe, Uli *zum Schweigen* und *zum Hören zu bringen*. (J. Gotthelf: Uli der Knecht) かれは、Uli におしゃべりをやめさせて自分の言うことに耳を傾けさせるのが一骨であった | Töne sind mechanische Schwingungen, die zunächst das Trommelfell *zur Erschütterung bringen* und sich dann von hier aus bis zum inneren Ohr fortpflanzen. (?) 音響というのは機械的振動で、まず鼓膜を振動させた後、そこからまた内耳まで伝わるのである | Der Pilot hat das Flugzeug *zum Absturz gebracht*, da er mit der Mechanik dieses Typs nicht vertraut genug war. (Zeitung, 1941) 操縦士は、この型の飛行機の構造機能に充分精通していなかったために、機を墜落させてしまったのである | Das Hämolysin *bringt* die roten Blutkörperchen *zur Auflösung*. ヘモリュジンは赤血球を壊滅させる

♥ *in* を用いる場合も多い。*in Anschlag bringen*, *in Rechnung bringen* (od. ziehen), *in Erwägung bringen* (od. ziehen) 「考慮する」, *in Erfahrung bringen* 「聞知する, 聞き込む」, *in Ausübung bringen* 「実行する」, *in* (od. *zur*) *Umdrehung bringen* 「回転させる」, *in Umlauf bringen* 「流行らせる」など。— *zu* は主として動作を考え、*in* は主として状態を考える。

D. *zum (zur) ... stehen, stellen*

たとえば *jemandem etwas zur Verfügung stellen* 「ある人にある物を用立てる」は能動相、*etwas steht jemandem zur Verfügung* 「ある物がある人に用立てられている」(意味は単に「所有している」にすぎないことが多く、*zur Verfügung* の代わりに *zu Gebote*, *zu Diensten* とも言う。あるいは *Man verfügt über etwas*.) はその自動相、あるいは状態相である。*etwas zur Diskussion (Debatte, Aussprache) stellen* 「ある事を討論にかける」は能動相、*Etwas steht zur Distussion (Debatte, Aussprache)*. 「ある事が討議に付せられている、掛かっている」はその自動相あるいは受動相である (*der Debatte unterwerfen* と *der Debatte unterworfen sein* との差)。その他一般に *stehen* と *stellen* との間にはこのような関係がある。そのほか、*zur Schau stellen*, *stehen* などがあるが、この型は他にあまり類造の余地がない。

E. zum (zur) ... schreiten, vorgehen, greifen, übergehen

たとえば「票決する」ことを *zur Abstimmung schreiten, vorgehen* といい、「正当防御する」ことを *zur Selbstwehr schreiten, greifen*, 「攻勢を取る」ことを *zur Aggressive (Offensive) vorgehen, übergehen* という (ergreifen ならば4格目的語 *die Aggressive (Offensive) ergreifen*)。

F. 無冠詞の zu は, 迂言動詞の範囲では例外に属する

「破綻を来す」, 「ひびが行く」を *zu Bruch gehen* (または *in Bruch, in die Brüche* ともいう), 「...の助けを借りる」を *etwas zu Hilfe nehmen* と言うなど, 無冠詞形の *zu* は, 筋道のある迂言動詞としてはごく僅少の例外に属する。

【冠詞 I: S. 838-842】